

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	千葉市新清掃工場(仮)	階数	地上7F
建設地	千葉県千葉市若葉区	構造	S造
用途地域	指定なし	平均居住人員	30人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,700時間/年(想定値)
建物用途	事務所・工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年3月 予定	評価の実施日	2022年8月5日
敷地面積	30,106 m ²	作成者	平野 和彦
建築面積	7,862 m ²	確認日	2021/7/
延床面積	20,635 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.5

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.7

LR のスコア = 3.5

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		
総合 迷惑施設と言われているごみ処理施設の負のイメージを払しょくできるよう、明るく清潔な施設をなすよう心掛けた。		その他 北側の既存緑地の植生に合わせた植栽計画とした。
Q1 室内環境 養殖施設と言われないよう、汎用品を使いシンプルな仕上げとしている。見学者の動線を広めにとり、見学窓もできるだけ大きめに設定した。	Q2 サービス性能 必要な設備が必要な箇所に設置。あつた方がいいではなく、なければならぬものを選択し設計している。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内は車両が数多く走行するため、来場者と搬出入車両が交錯しないよう計画した。敷地外周部には緑地を設けているが、周辺への粉じんを考慮し、極力土が現れないよう努めた。
LR1 エネルギー 近隣のプールへの蒸気供給及び隣接する福祉施設への温水供給をできるようにする。場内での使用電力は、工場運転時は自前で発電、余剰分は充電できるようにする。太陽光パネルを設置し、場内で使用する電力の一部を賄う。	LR2 資源・マテリアル 構造体に使用する材料は、強度と数量のバランスを考慮し選定した。将来の解体時を考え、仕上げと躯体は極力接合せず、それぞれを個別に解体できるようにした。	LR3 敷地外環境 騒音、振動に加え大気質についても基準を遵守し、迷惑施設と言われないようにした。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される